

一字書課題 (7月22日締切)

勇

- (1) 書体自由 (2) 半紙タテ
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券の余白に「二字書」と記入

半紙臨書課題

高橋香樹会長担当 (7月22日締切) 出品料440円

木簡(敦煌木簡)

第四回
1、字句「方衛益」



条幅随意参考



周千秋趙儒卿

禾火

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部(無料)にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

『書の宇宙③』より敦煌木簡(二玄社)

- 2、形式「半紙タテ使用。中央に臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観「前回(額済納居延漢簡)に引き続き、波磔の美しい敦煌出土の木簡を取り上げました。この木簡は「急就章」を写したものです。「急就章」は、児童に字を教える為の教科書として作られたもので、一字も重複の字がなく、後の「千字文」にあたるものです。およそ五五〇年の間、文字を覚える為の唯一の教科書として流行しました。この「急就章」は、觚と呼ばれる三角柱に書かれていますが、いかにも気持ちよさそうに、筆をさらりとのばして見事に書かれ、特に波磔の美しさは際立っています。
- 4、各字のポイント

- 方 二画目は、藏鋒ながらしっかりと筆を突き、伸びやかに。三画目は、一画目の右に動く線と、二画目の右に伸びる横画と呼応するかのよう左へ伸ばす。
- 衛 横画はかなりの右上がりだが、左右に伸びた長い画でバランスをとる。起筆は軽い藏鋒。
- 益 四画目は点がつながって線となった。最終横画は極端に長い。上部が左によっているが、波磔でバランスをとる。

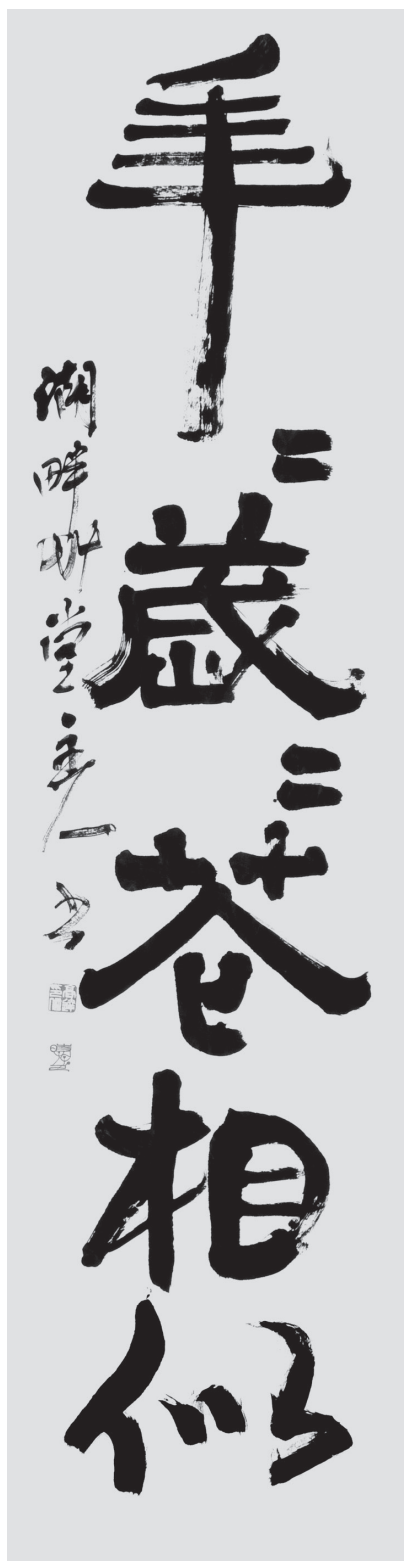
条幅部漢字課題参考

(七月二十二日締切)

A
高橋 香樹 会長 書

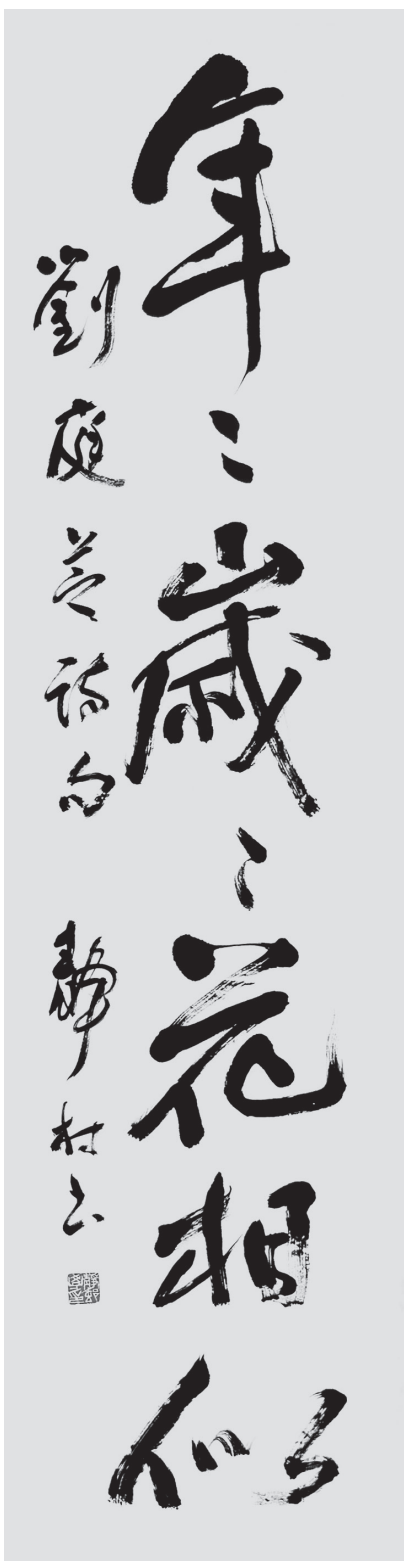
年年歳歳花相似 (劉庭芝)
年年歳歳花相似たり

※5月号掲載の予告に誤りがございました。末字は「以」ではなく正しくは「似」です。お詫びして訂正いたします。



B
鈴木 静村 先生 書

久し振りに一行書です。行草でと思いましたが、今、臨書部で勉強している木簡でと思ひ試みました。「ミ」(くりかえし記号)は、上に同じを意味する為、七字を五字同様に配置することが出来ます。「花」は、「華」でも考えましたが、清代に作字して「蒼」があったので、これにて書きました。



著名な詩句。「返り点」がなく口誦みつつ快いリズムで運筆。年 第一画やや強調。似 第一画同様黄庭堅拝借。歳 止は「山」と古典に多い。花 墨継ぎ。ミは点を強く打ち末画へ。蘇軾の手法。相 目 脈絡させ次字へ。落款、作者名を入れ〇〇書。

訳：年ごとに花は同じだが、(人は毎年変わっていく。)

※劉庭芝：劉廷芝・劉希夷と同一人物。

予告 (八月二十二日締切)

景物自隨幽意得 世情渾與此心違 (陳留)

◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部かな課題参考

(七月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

かくとだにえやはいぶきのさしも草さしも知らじな燃ゆる思ひを (藤原実方朝臣 百人一首)
か久と多尔えやはい婦きの佐しも草さ志茂しら志なも遊る於も日を

B

森多富先生書

かくとだにえやはいぶきのさしも草さしも知らじな燃ゆる思ひを (藤原実方朝臣 百人一首)
か久と多尔えやはい婦きの佐しも草さ志茂しら志なも遊る於も日を

学び方

今回の歌は、「し」「さ」「も」のくり返しが多く、これらをどの様に表現するかは、なかなかむずかしいと思います。このような場合、幾通りも下書きを作り、布置、字体の大小、余白等のバランスを考えます。三行書きで、流れを下方にまとめて収まるような構成にしました。濃い墨で、縦に流す線の書き分けを工夫し、変化をつけました。

自由創作もちろん楽しいですが、しぼりのある中で、いろいろ工夫して書作するのも楽しいものです。皆さん各々個性ある創作を期待します。

予告 (八月二十二日締切)

夕立のは山すぎにし木づたひにまたしぐれゆくむら蟬のこゑ (下河辺長流)

藤原実方朝臣は、平安時代から鎌倉時代の公卿。藤原行成との争いが元で左遷され任地で没した。

この歌は、後拾遺集・恋一に載り、百人一首にある。歌の主旨は、この燃える恋情を知って欲しいという、女性への愛の告白。

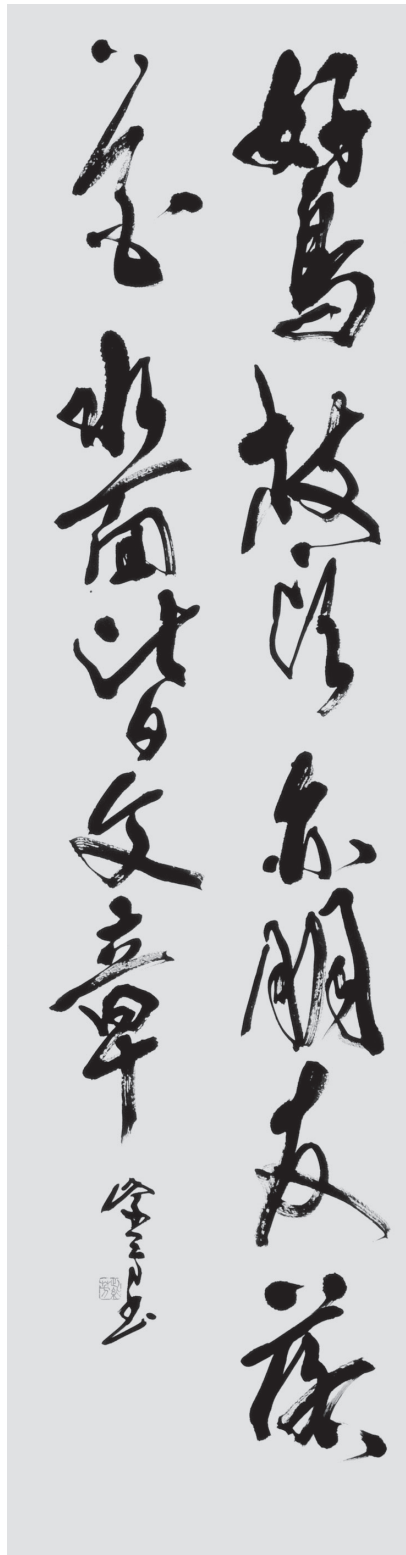
「えやはいふ」「いぶきのさしも草」「さしもしらじな」、さらに「思ひ」「ひ(火)」と序詞・掛詞で表現を展開させ、加えて「さしも草」「もゆる」「ひ(火)」と、縁語をたどって結句にいたる修辞は、言葉の魔術を思わせる。複雑な恋心を技巧的にとらえた作歌は、実方の代表作。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部随意参考

高橋紫芳先生書

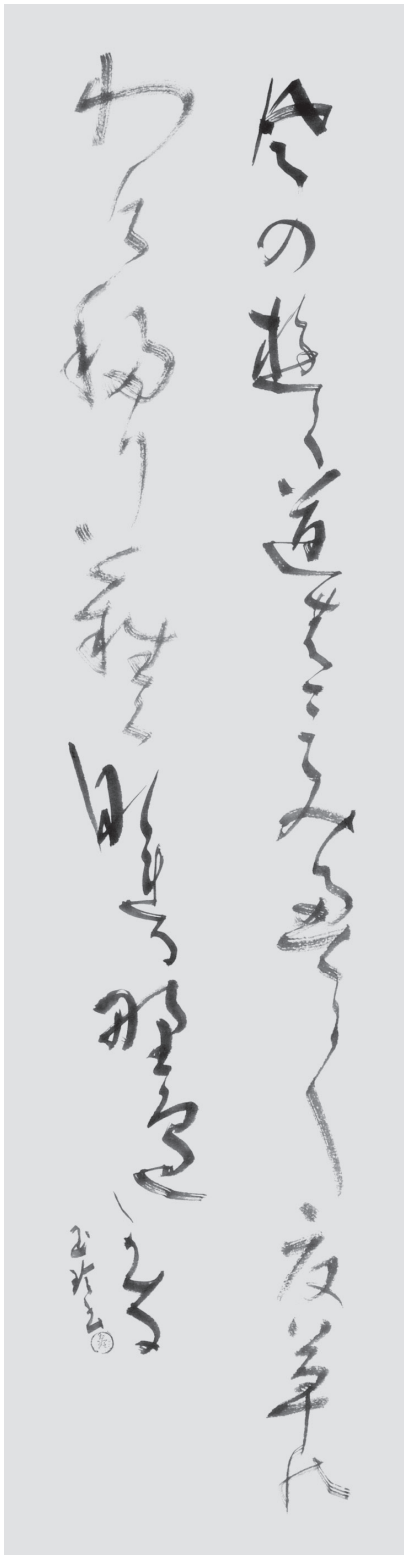
好鳥枝頭亦朋友 落花水面皆文章（朱文公）
好鳥枝頭亦朋友、落花水面皆文章。



訳：枝上に遊んで鳴きかわす鳥もまた友人、池の水上に散る花はみんな文章である。

大和田玉玲先生書

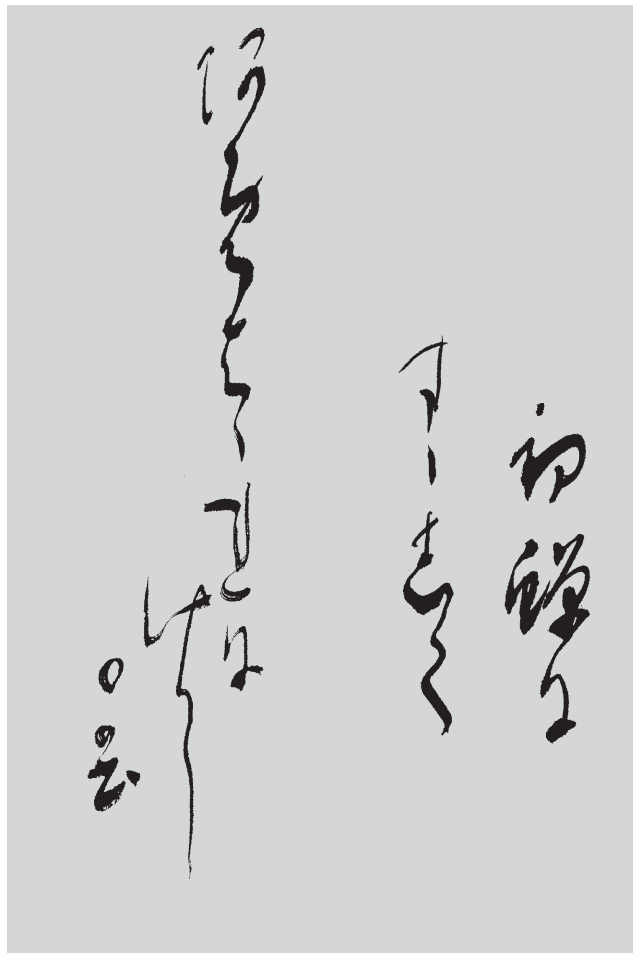
風のゆく道のみ見えて夏草の分け入り難くなれる野邊かな（阪正臣）
風の遊久道農三み盈弓夏草能わ介移り難く那連る野邊可奈



歌意：風の吹き過ぎていく道ばかりが見えて、夏草がすっかり生い茂り、分け入ることもできなくなってしまった野辺であるよ。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（１）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

かな部課題参考 (七月二十二日締切)



平岡華雪先生書

初蟬に涼しく雨は晴にけり (梅郊)
初蟬^{はつせみ}すゝ志久^{しきう}阿免^{あめん}者^は連^{れん}尔^にけり

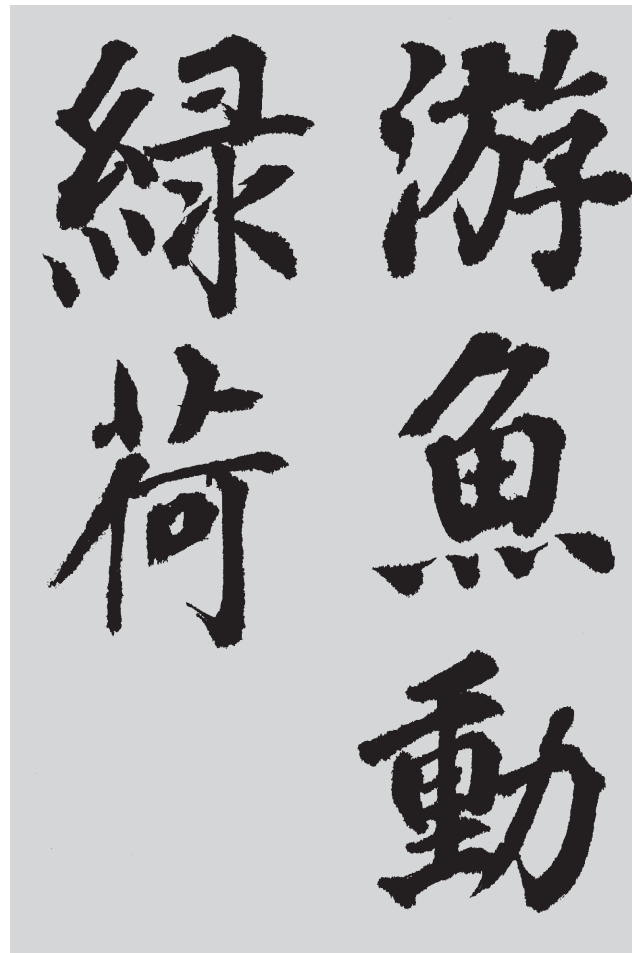
〈左群、主調として〉

初夏らしいスッキリとした二群構成。右群は「初」と「蟬」を離すことで風通しをよくして爽やかに。左群は見せ場。「阿免者^{あめんは}」は抑揚をつけリズムカルに。「けり」は涼し気に寄せる。

(八月二十二日締切)

雲の峰塵^{ちり}の都に立ちにけり (虚子)

漢字部課題参考 (七月二十二日締切)



平岡華雪先生書

游魚^{うぎょ}緑荷^{りくか}を動かす (陸游)
訳：池の魚が蓮の葉を動かしてたわむれている。

〈的確な用筆で〉
「游」の三水偏、「魚」の連火、「緑」の糸偏、これらの部首は形よりは用筆上のポイントです。この用筆で失敗すると、その字形にも影響します。用筆に充分習熟を。



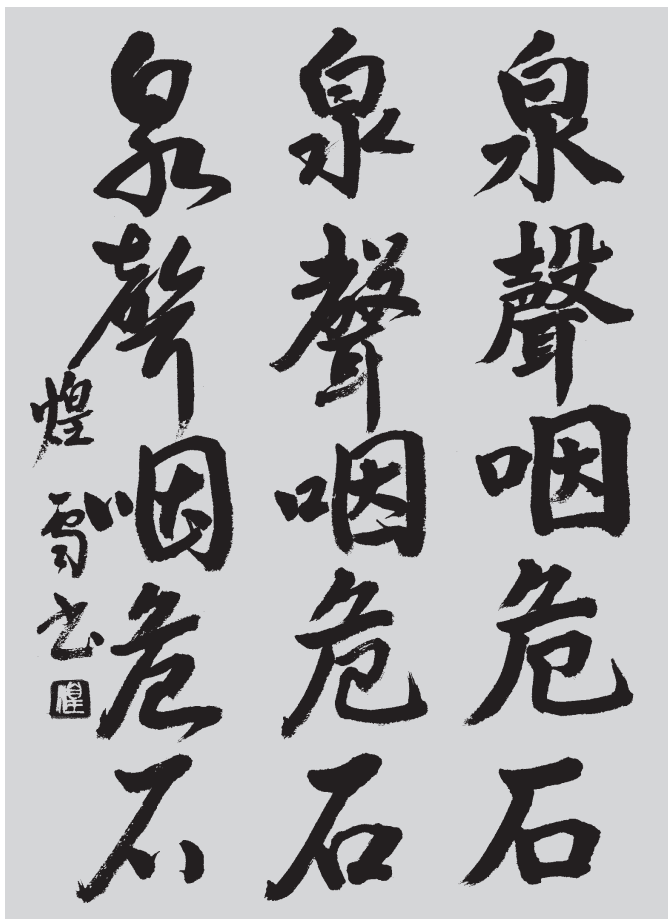
(八月二十二日締切)

福生於無為

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (七月二十二日締切)



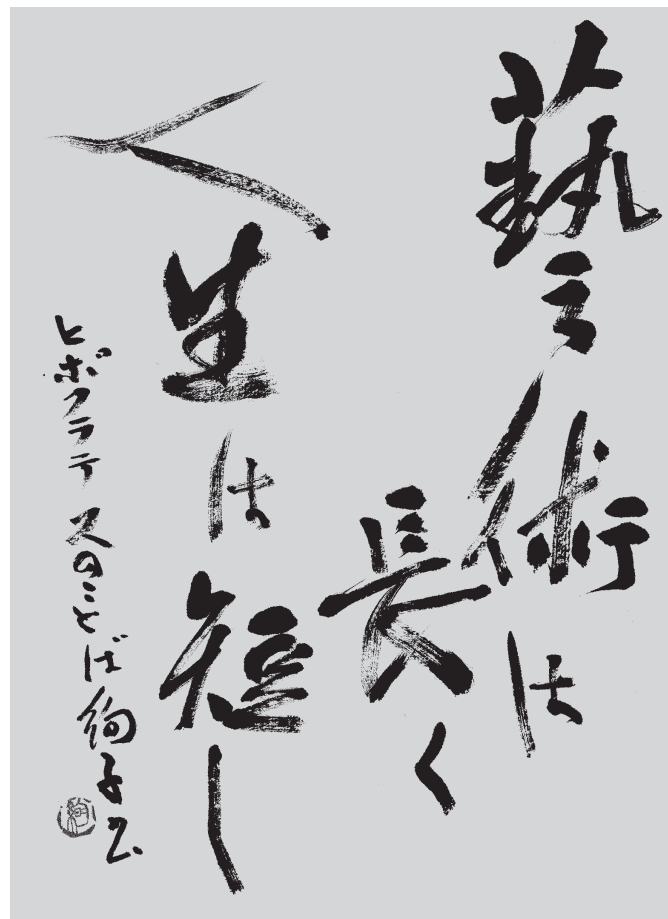
星野煌雪先生書

泉聲咽危石(王維)

泉聲^{せんせい} 危石^{きせき}に咽^{むせ}び

古代ギリシャの医者ヒポクラテスの言葉である。『芸術家の作品は、作者の死後も後世に残る』にたとえられ、音楽家の故、坂本龍一氏が好んだとされる言葉である。書を嗜む者の心意気にも通ずるのではないか。
今回は、誰にでも読めるように、奇をてらわず平明に書いてみたい。

漢字かな交じりの書課題参考 (七月二十二日締切)



宮 絢子先生書

藝術は長く人生は短し

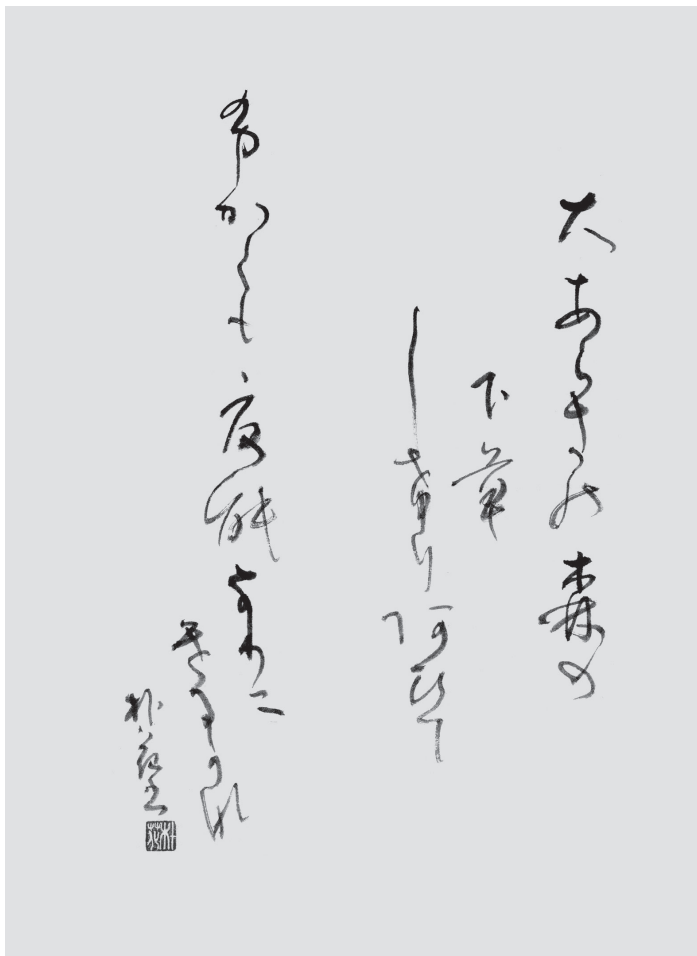
(ヒポクラテスのことば)

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

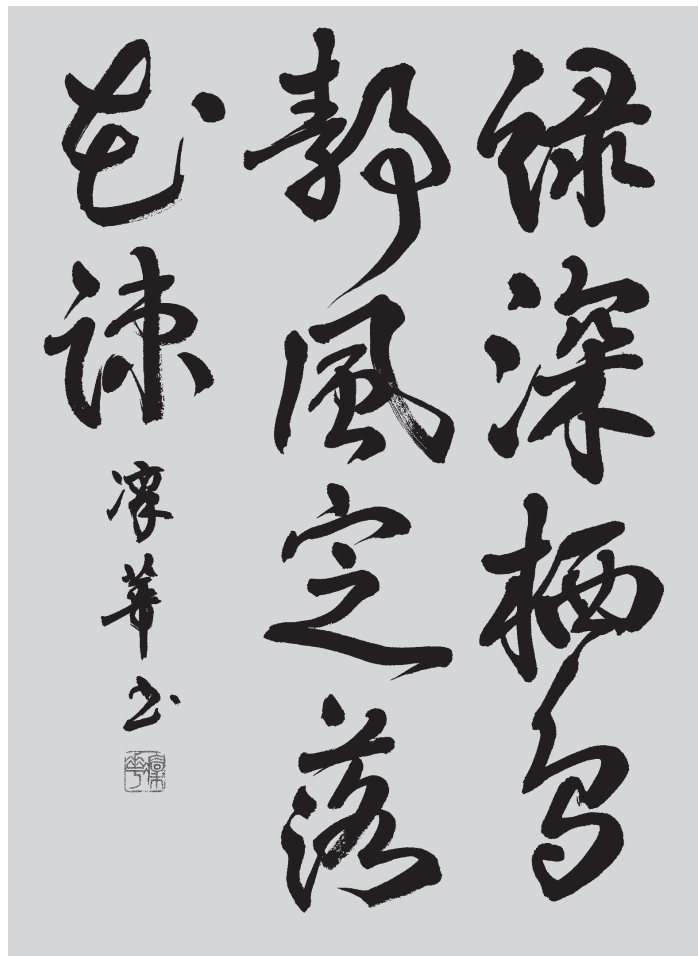
歌意…大荒木の森の下草が、草深く生い茂り合って、その草と同じように夏の次第に深まってきたことだなあ。



向山朴花先生書

大あらしの森の下草茂りあひて深くも夏のなりにけるかな（壬生忠岑）
大あらし能森の下草し希り阿ひて布か久も夏能奈利二遣る可那

訳…緑陰は茂って深くすむ鳥もしずかに、風は吹きやんで時々花が散っている。



勝間凜華先生書

緑深栖鳥静 風定落花疎（易譜）
緑深く栖鳥静かに、風定って落花疎なり。

硬筆部課題参考

(七月二十二日締切)

生駒紅泉先生書

稲畑曄穂先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

梅雨が明け、夏の予感に
満ちる七月。爽やかな風が吹き、
緑はいよいよ美しい。

天の川は夜の空の白い帯と
なつてぐらりと天蓋を半周し、
またもう一方の端を闇の大地に
もぐりこませていた。

課題1 (初段階以上)

天の川は夜の空の白い帯となつてぐらりと天蓋を半周し、またもう一方の端を闇の大地にもぐりこませていた。

『風の道 雲の旅』 椎名 誠

※5月号の課題1に「(師範以下初段階以上)」と表記されていましたが、正しくは「(初段階以上)」です。

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四六〇円

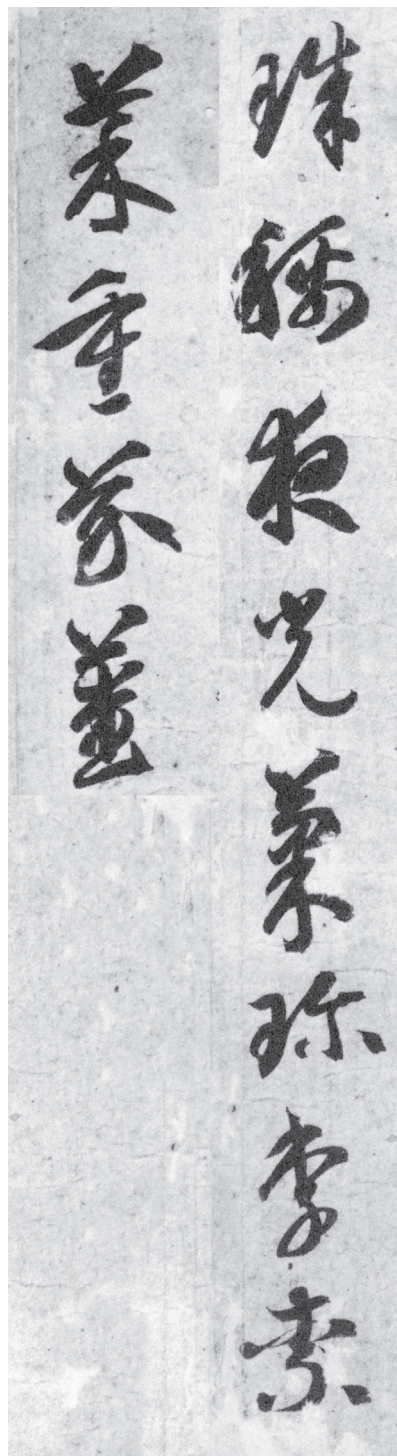
課題2 (初段階以下)

梅雨が明け、夏の予感に満ちる七月。爽やかな風が吹き、緑はいよいよ美しい。

『よつ葉のエッセイ』 依 万智

研究部課題 (七月二十二日締切)

(課題) 漢字臨書



(出典) 『真草千字文』 智永

珠稱夜光。菓珍李奈。菜重芥薑。

珠は夜光と称す。菓は李奈を珍とし、菜は芥薑を重んず。

▽注意

(1) 半切タテに臨書する。 (2) 二行書き・字詰め自由。

(3) 落款は「小松臨」と書き入れること。雅印は無用。(出品者の本名又は雅号を書き入れた作品は不可)

▽出品要項

(1) 資格 推薦、準推薦、推薦格合格者 (漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また

同人、準同人も歓迎)

(2) 締切 七月二十二日必着

(3) 発表 表 書延九月号誌上

(4) 出品料 九四〇円同封

(5) 出品方法

ア、出品は一人一点とする。

イ、私製の出品票 (縦10 cm×横5 cm) を作品の左下に貼付する。

一般部 臨時昇級試験の申し込みについて

申し込み方法

- ・受験する月の課題と返信用ハガキを同封して、封筒に赤で「臨時昇級試験」と記入。結果は、ハガキで通知(メールでの通知をご希望の場合はメールアドレスを明記のこと)。発表は翌々月の誌上。
- ・昇級受験料と同じ金額です。郵便振替でお願いします。

受験資格

- 毛筆…特選以下 硬筆…二段以下
- 毛筆は第一部、第二部、第三部の注意事項と受験資格参照
- 第一部 条幅 三、八〇〇円
- 第二部 半紙 二、五〇〇円 ↓ ④ 漢字部 楷、行、草三体
- 第三部 半紙 二、〇〇〇円 かな部 短歌

☆バーコード券の貼付は作品の左下をお願いします。

この部分を半紙の表側に貼ります

6月	支部	氏名	書格 一般
支部	氏名	氏名	
菜漢()	菜随()	菜か()	
平漢()	半随()	半か()	
臨書・昇試	臨昇		
推薦～初段格(赤)	1級～8級(黒)	天地位	
格	格		
赤で記入 (初段格以上)	黒で記入 (一級以下)		
200000000000			

※バーコード部分は切り落とさないで下さい



※バーコード券は作品の表面に貼付します
※作品にかかる時は空いている所に貼付して下さい

※段級は最新号発表のものをご記入して下さい。

6月22日提出作品(5月号掲載手本分)は6月号の名簿を参照してください。
正確な段級の記入のご協力をお願いいたします。